

信越ポリマー株式会社 2025 年 3 月期 決算説明会

社長挨拶要旨

社長の出戸でございます。

本日はご多忙中のところ、弊社の決算説明会にご出席賜りまして、誠に有難うございます。皆様には日頃大変お世話になっており、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

当期は、生成 A I の実用化に伴う先端半導体の需要増加や、海外において汎用半導体の生産が一定水準を維持したことなどを背景に、ウエハー容器の販売が堅調に推移しました。また、プリンター販売や複合機の置き換え需要が堅調だったことから O A 機器用ローラの販売が伸びました。一方、車載向けの入力デバイスや車載シリコン成形品などは最適生産や合理化に努めましたが、欧米自動車メーカーの生産減速の影響を受けました。ラッピングフィルムは外食産業向けの需要が堅調に推移したことから、カラー製品を中心に業務用小巻ラップの販売が堅調を維持し、メディカル製品も新規製品の販売が伸び順調に推移しました。

この結果、当期における業績は、

・売上高	<u>1,105 億 82 百万円</u>	(前年同期比 62 億 3 百万円の増加)
・営業利益	<u>132 億 71 百万円</u>	(前年同期比 22 億 20 百万円の増加)
・経常利益	<u>132 億 18 百万円</u>	(前年同期比 16 億 88 百万円の増加)
・親会社株主に帰属する四半期純利益	<u>94 億 30 百万円</u>	(前年同期比 7 億 56 百万円の増加)
期末配当は、 <u>1 株当たり 27 円</u> とし、 <u>年間 52 円</u> とさせていただく予定です。		

今後につきましては、引き続き中期経営計画に沿って基盤領域における販売力強化、生産性向上、成長領域における新規需要の取り込みに努めます。

半導体市場は、半導体デバイスの需要が上向いてきており、在庫の解消は徐々に進捗する見通しです。併せて生成 A I 関連製品の需要も増えてきており、緩やかに市況が好転していくものと見ています。当社はかねてより需要増を見越し、生産体制の増強を図ってまいりましたが、昨年 8 月に東京工場で建設していた半導体容器の新工場が完成しました。今期は市況好転のタイミングを見逃さず新たな需要を取り込むことにより更なる事業の拡大発展を目指します。

自動車関連の新規製品としてこの 4 月より E V バッテリー用延焼防止クッションの本格生産を開始しました。また、フィルムコンデンサー用耐熱薄膜フィルムは、量産化に向け早期の開発完了を目指します。E V は現状、減速したものの、自動車メーカー各社の E V に関する投資は継続しており、長期的には伸長するものと見ています。今後も機能を追求し、環境対応車関連分野において新規製品を獲得することにより事業の拡大を目指します。

基盤領域に位置付ける入力デバイス・O A 機器用ローラ・ラッピングフィルムは機能の差別化を徹底し、独自製品の投入により市場シェアの拡大を図ることで、さらなる販売力強化に努めてまいります。また、4 月 1 日に吸収合併したキッチンスタについては、今後、経営の効率化を図り、お客様の要望にお応えする新製品をタ

イムリーに投入して事業の発展に努めます。

これらの活動を積極的に進め中期計画の達成を目指します。

米国政権の政策に伴うリスクに対しては、顧客、取引先等と密接にコミュニケーションを図り情報収集に努め、適宜対処してまいります。

なお、今期の業績予想につきましては、ウクライナや中東地域での紛争の長期化や、米国の政策動向など先行き不透明な状況が続くものと思われます。そのため、現時点で合理的な算定が困難であることから未定とさせていただきます、今後、業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

以上、ご報告とご挨拶とさせていただきます。

信越ポリマー株式会社 2025 年 3 月期 決算説明会

質疑応答要旨

日時	2025 年 5 月 9 日（金）14:00～14:50		
開催形式	ウェビナー（ライブ配信）		
登壇者	・代表取締役会長	会長執行役員	小野 義昭
	・代表取締役社長	社長執行役員	出戸 利明
	・取締役 常務執行役員	開発本部長	菅野 悟
	・執行役員	経営企画部 経理部 部長	小和田 収
	・執行役員	営業第三部 部長	山本 和彦

<全 社>

Q1. 米国の関税政策が与える影響と対応について教えてほしい。

A1. 直接米国に輸出しているのは約 2～3%ほどであり、影響は軽微と考えているが、弊社製品のエンドユーザーである自動車メーカー、プリンターメーカー、半導体メーカーなどが明確な指針を公表していない以上、弊社もその対策を立てられない状況である。ただし、例えばキースイッチなど車載向け製品は弊社のインド、マレーシア、中国、日本に生産拠点があり、生産場所選択の余地があり、お客様と密にコミュニケーションを取りながら対応していきたいと考えている。

Q2. 御社は自己資本比率が高くバランスシートがしっかりしており、自己資本に対する現金の割合も高い水準を維持している。信越化学工業は大規模な自社株買いを実施しているが、御社においてバランスシートの見直しや株価や資本コストを意識した経営など株主還元についてどのようにお考えか、考え方を教えてほしい。

A2. 弊社は中期経営計画のなかで段階的に配当性向 50%を目指すことを謳っている。前期（25 年 3 月期）も増配したが、今期も中期経営計画に沿って引き続き配当性向 50%に向け増配していく。また、弊社は自社株買いを考えておらず、株主への還元はあくまでも配当を基本として考えている。

Q3. 東京証券取引所が「親子上場等に関する投資者の目線」などの資料を公表するなど、親子上場解消のトレンドがある。また、昨年信越化学工業が三益半導体を完全子会社化した。子会社である御社から見て親会社が適切なパートナーなのか、また、親会社との関係性や親子上場の必然性がどのようなところにあるのか教えていただきたい。

A3. 親子上場は親会社の経営政策であるが、弊社としては上場維持によるメリットがある。例えば上場して独立しているから半導体関連容器を信越化学グループ以外のお客様にも販売できている。このようなメリットを維持するためにも弊社としては上場を維持していきたい。

<電子デバイス事業>

Q1. 通期業績予想は不透明感が高く現時点で公表できないとのことだが、車載関連事業について顧客からの引き合い状況を教えていただきたい。また、量産開始した EV バッテリー向け延焼防止クッションを含め車載関連製品の今期（26 年 3 月期）の見通しを教えてほしい。

- A1.** 前期（25 年 3 月期）はキースイッチが欧米自動車メーカー減産の影響を受け落ち込んだが、延焼防止クッションやヘッドランプ用の LED ライトガイドの本格量産が開始した。また、シリコンワイパーなども新たな引き合いが増えている。キースイッチは苦戦が続くと見ているが、新規製品の引き合いが増えておりキースイッチの落込みを新規製品がカバーすると考えている。車載製品の今期の業績見通しとしては前期と同等もしくはそれ以上になると考えている。

<精密成形品事業>

- Q1.** 半導体関連容器について、先端半導体比率の上昇により容器の付加価値も上がると思うが、足元の FOSB リユース状況および今期の見通しを教えてください。また、デバイスメーカーが長期で保管していた FOSB がリユースボックスとして返却されても十分再使用可能で、御社にとっては出荷量減少のリスクとなるものなのか教えてください。
- A1.** この先様々な状況が想定されるが、足元ではウエハーメーカーとデバイスメーカー間でウエハー在庫が積み上がっておりその水準は変化していないと捉えている。そのため現時点ではリユースが弊社の出荷量に影響を与えてはいない。リユース自体はウエハーメーカーとデバイスメーカー間の取引であり当社の関与する余地がないため今後もお客様とコミュニケーションをとりながら最適生産に努める。
- Q2.** FOSB の素材変更について動向を教えてください。
- A2.** 新たな仕様の FOSB を準備しているが、現状ではお客様から先端ウエハーの輸送について既存の FOSB で十分に耐えられると評価をいただいている。いわゆる次世代ウエハー用容器と言われる製品を市場に投入するタイミングではないと考えている。
- Q3.** 精密成形品事業のシリコンゴム成形品の今期（26 年 3 月期）の業績見通しについて教えてください。
- A3.** シリコンゴム成形品は医療製品のウェイトが大きいですが、前期（25 年 3 月期）は医療製品において拡大を進めてきたバイオ医薬品製造向けシリコンチューブが前々期に比べて大きく伸びた。お客様が従来海外から調達していたものを日本国内製品へ切り替え始めているため、今後は需要が伸びると見込んでいる。医療製品全体も確実に伸びると考えている。

<住環境・生活資材事業>

- Q1.** アジアの自動車生産が停滞しているが、タイのハイミックス社の稼働状況を教えてください。
- A1.** 塩ビコンパウンドは出荷量が落込み、前期（25 年 3 月期）が底だったが、徐々に回復してきている。確かにタイは自動車の減産が続いているが、自動車以外の需要が伸びており集中的に稼働を上げている。既存のお客様の需要も回復しつつあり足元の稼働率は 7 割～8 割である。
- Q2.** 今期（26 年 3 月期）は前期より状況が改善される見通しなのか。
- A2.** ご理解の通りで、他の生産拠点からハイミックス社への生産移管を進めており、今期は前期より稼働率が上がる見通しである。

以上